

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1950880045		
法人名	医療法人千歳会		
事業所名	グループホーム甲西		
所在地	南アルプス市田島1105		
自己評価作成日	平成24年8月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成24年9月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム甲西は老人保健施設、通所リハビリテーションが併設されていて広々とした環境にあります。医師・看護師による医療面での連携や、管理栄養士による栄養面を考慮した食事の提供をしています。畑がありいもや玉ねぎの植え付けなどご利用者と一緒作業し、収穫した野菜はホーム内で食材にし、時々昼食づくりをご利用者と行っています。掃除も利用者と一緒に、常に気持ちよく過ごしていただけるよう環境整備に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の併設された施設の建物の南の一角に位置し、正面玄関の道ひとつ隔てた広い畑は黄色く輝いた稲穂が刈る時を待っている。農業を営んでいた利用者にとっては田植え・カエルの鳴き声・実りの秋等自然の中で四季の変化を楽しめる環境にある。居室は本人の個性が出た配置・飾り付けが家族の支援の中で出来ている。利用者の得意とする素晴らしい「書」が目をはく。併設の施設にボランティアが来所した際は、グループホームの利用者も参加して楽しんでいる。散歩時地域の方から頂いた野菜を食事に採りいれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホーム甲西

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご家族や地域の人達・地域関連機関と協力し、安心して自立生活が続けられるよう柔軟な支援を事業所の理念にしている。事業所内の定例会、研修などでその都度唱和したり、事業所内にも貼ってあり、日々実践につなげている。	日々の中でグループホームの理念をミーティングの中で復唱し、日々のケアのなかで特に言葉づかいの対応・入所者の尊厳を守る事を重視しながら、自立支援に向けた対応に取り組んでいる。「私たちの注意すること」、の内容を細かく振り下げた表を介護室に掲示して実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	事業所自体が田島区の一員とし、お祭りや地域活動などの情報を地域の方からいただき、ご利用者が地域とのつながりを持ちながら暮らしが続けられるよう工夫している。毎日の散歩で近隣の方との交流があり、野菜をいただいたり、お礼にご利用者が作成したポプリを届けたりしている	地域住民の職員から情報を頂き地域の行事に参加したり、文化祭に利用者の作った作品を提出している。また毎日近所のお寺まで散歩に行き、立ち寄っている方と会話したり、野菜等を頂いてくることもある。	ともに暮らす地域住民の一員として、地域で必要とされる活動を積極的に担っていく努力が求められています。自治会に参加して、事業所への理解がより深まっていくことを期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は日々の実践での認知症の方の理解や支援について、地域の人たちの相談やアドバイスができるようにしている。見学や相談はいつでも対応できる。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者の近況やサービスの実践やその取り組み状況などについての報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスの質の向上に活かせるよう取り組んでいる。	2か月に一度開催している。事業所からの報告は利用者の状況、行事の内容等を説明している。参加メンバーの家族から、利用者の夜間の状況を尋ねるなど質問、意見が出る。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの担当者と連携を取り合うなど、事業所の実情や状況などをお伝えしながら、常に協力し合えるよう取り組んでいる。市町村の研修や施設部会に出席し、他施設の方や市町村の担当者とも連携をとらせていただいている。	市の事業所連携会議に出席して情報交換をし、事業所で抱えている悩みなど相談に応じてもらっている。また災害時の地域住民の備蓄の件について市側に提案をした。認定の更新は家族が市町村に届けて市から調査に来て利用者の実情を伝えて連携を深めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切行わない旨を、事業所内掲示板に表記している。また、ご家族へもその説明はしている。現在日中は施錠せず安全に生活できるよう支援している。スピーチロックは特に留意し日々の支援に反映できるようにしている。	正面の入口の鍵をかけないように努力している。スピーチロックは接遇マナー研修に参加した職員が中心になって、参加していない職員に伝えている。全職員が言葉への意識は持って利用者の支援に当たっている。	時には玄関の扉に鍵をかけて外部からの入りにくい時もあるとの声も聞かれます。鍵をかけずに安全に過ごせる工夫をすることが求められています。職員間で検討することを期待したい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフは高齢者虐待防止法に基づく学習会の機会を設け、事業所内に限らず、ご利用者の自宅での虐待が見過ごされないよう留意すると共に、防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	もともと、司法書士とのやりとりがあるため、その都度指導や何かあれば相談にのっていただき、アドバイスをいただいている。権利擁護の研修会にも参加し、学んだことをスタッフ全員の共通の知識とし、ご利用者の自己決定のある生活を支援させていただいている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約・改定時はご利用者やご家族の意見や意向・疑問な点など、一度ではなく直接何度か話し合い理解していただけるよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	当事業所は家族の面会が頻回にあるためその都度、ご家族の要望をお聞きすると共に、ご利用者にもその都度意見や要望を聞く機会をつくっている。また、苦情に関してなども意見が言いやすいよう、窓口を併設施設の相談員が対応し、法人内で連携して意向の反映に努めている。	家族が意見を言い易い状況にあるが、なかなか意見・意向が出てこないことが多い。家族から医療面の件について要望などあるが、法人と検討し今後の課題とする。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、定期的にスタッフミーティングを行い、職員の意見や要望などを聴き、業務に反映できるように取り組んでいる。出席できないスタッフは事前に意見を伝えたり、会議の内容は議事録で周知している。	毎月1回のミーティングは昼間利用者のいるホールで行う。出席出来ない時は意見・要望を連絡ノートに記入してもらい意見を吸い上げている。出席できなかった職員は議事録を確認して周知に努めている。「食事の終わる時間が早いのでは」の気づきに検討し、速やかに食事の対応を工夫して、ゆったりした時間が持てるように改善した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者やスタッフの個々の努力や実績・勤務状況などを評価し、やりがいや向上心が持てるよう配慮している。資格修得等についても、勤務時間を考慮するなどの応援体制もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者やスタッフに対して、力量や段階に応じて、事業所内外の研修や学習会の機会を作り、人材育成に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者やスタッフが他グループホームと「グループホーム交流会」を持ちながら、一緒に学習会や親睦会をしながら相互の質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の思いや不安を受け止め、安心してもらえるよう、寄り添いながら話の傾聴に努めている。「その人」を知ることができるよう、スタッフ全員で関係づくりに心を配っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人やご家族が何にどう困っているのか、それぞれの思いや要望を聞きながら、一緒に考えていくことから関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期よりご本人やご家族の思い、また、それを取り巻く状況などを確認しながら、改善に向けた支援の提案を繰り返し、その方が本当に必要とするサービスにつなげられるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるご利用者より、普段から生活の知恵など様々なことを教わりながら、ご利用者とスタッフが支え合いながら、生活を共にしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフはご利用者のみならず、ご家族との交流をもちながらご家族にも寄り添い、ご本人の日々の出来事やそこからの気づき等を共有し、本人を共に支えていく関係づくりをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の希望を聞きながら会いたい人や場所に行けるようにしている。ご家族の協力を得て実家へ行ったりお墓参りに行ってきたりもしている。	家族が家に連れて行って近所の馴染みの方との交流、娘が実家に連れていっての墓参りや毎週土曜日に来所して散歩するなど継続的な交流が出来るよう支援をしている。また髪を染めたいという希望を実践に繋げていきたいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれに話を聴き相談にのらせていただいたりしながら、職員も一緒に会話の機会を多く持ち、気の合う仲間作りや、ご利用者同士の関係がうまくいこうスタッフが間に入り支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、当グループホームのご利用者スタッフで面会に出かけたり、併設施設相談室とも連携しながら、ご家族とその後のやりとりを継続し、相談や支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりに重点をおき言葉かけだけでなく、しぐさや表情・目線の一つひとつに気を配りながらご本人の意向の把握に努めている。また、ご家族とも連携しながら、一人ひとりの思いや暮らし方などの意向などを検討している。	日々の関わりの中で1人ひとりがどのようにしたいか、希望などを把握しながら支援している。買い物大好きな方は、日用品(歯磨き粉・電池・ベルト等)を買いにスーパーに行ったり、お盆に家に帰って墓参りに行くなど、家族の協力を得ながら対応をしている。動物が好きという要望で、甲府の動物園に行く検討をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者一人ひとりのこれまでの人生や生活歴・環境的な背景や人間関係、さらにはサービス利用の経過などを大事にし、その方の価値観や個性を尊重するよう、全スタッフで取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれのご利用者の生活リズムや心身の状態の変化に留意しながら、できることやできないことに注目し、その人の全体像の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃から、ご本人やご家族の思いや意見を聴きながら、よりよい暮らしに反映できるようアセスメントや意見交換・モニタリング・カンファレンスをしながら介護計画を作成している。	毎日サービス内容をチェックして月の評価を行い、3か月で見直したプランを作成する。6か月で担当者会議を行ない、家族、利用者の意向を聞いて、職員・ケアマネが参加して再プランを立案する。6ヶ月ごとにアセスメント(センター方式)で見直している。また、必要時にはその都度実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	それぞれのご利用者の言葉やその時々エピソード、そこからのスタッフの気づき等を日々の記録に残し、職員同士の情報の共有や介護計画の見直し・実践的なケアへ活かすよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族のその時の状態に応じて、通院や送迎等、必要な支援を柔軟に行っている。また、併設施設の協力も得ながら、サービスを限定せず、多機能的に対応ができるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	もともと、地域との交流が盛んであり、地域包括支援センターや田島区民生委員・人権擁護委員などの協力を得ながら、地域ボランティアなどが多く参加して下さっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望されるかかりつけ医となっている。また、受診や通院についてはご家族の要望や状況に応じてスタッフが対応している。	事業所の主治医は週2回(木・土)来所して対応をしている。また利用者の馴染みのかかりつけ医(通所リハビリ)に週3回サービスを利用している。9:00~4:00通所リハビリから送迎があり、連絡ノートにて細かい連絡をとって利用者の支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や表情などの変化に留意し、異常の早期発見に努めている。変化等に気づいた時は、常時併設施設看護師に報告し、医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院した場合は定期的にお見舞いをし、ご家族や病院関係者などとも連携し、速やかな退院で不安なく過ごせるよう支援させていただけるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	できるだけ早期から話し合いの機会をつくりご本人とご家族や関係者の意向の確認をしていく。そこから当施設で対応しうる最大のケアについて説明を行っている。また、方針が決まればチームで方針を共有している。	入居時、重度化に伴う家族の意向を確認している。緊急時の搬送など、家族や一部の利用者は希望する病院に搬送される事を願っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や連絡方法については、勉強会や話し合いにて徹底している。また、緊急時は昼夜問わず併設施設の看護師が応援に入り、共に対応する事となっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成してある。災害を想定した訓練の積み重ねが大切なのでご利用者と共に避難訓練を実施している。地域の協力体制も確立しており、近隣協力者の名前が緊急連絡網にも載っている。	マニュアルを作成して併設の施設と共に体制づくりができています。年2回(合同1回・グループホーム1回)実地している。防災頭巾を準備して普段の生活の中で意識づけている。地震時の避難経路の把握は職員が理解している。	災害はいつ、どの時間帯に起きるかわかりません。特に、1人勤務の夜間を想定した場面を夜勤者の職員一人ひとりが、体験することが大切と思われます。避難誘導等円滑に出来るよう体得することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬意をはらい、ご本人の気持ちを大切にしながらさりげない言葉かけやケアを心がけている。また個人の情報についても責任ある取扱いと管理を徹底している。	援助が必要な時の言葉かけは周りに聞こえないように、さりげない支援をしている。入浴時の衣服も本人の意向を確認してからケアしている。また食器洗い・テーブル拭きなどの言葉かけをして積極的に行っている男性の利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりのご利用者に対して、ご本人がわかりやすく答えやすいような言葉かけや働きかけに留意している。ご利用者が自分で決めることができる場面をつくり、意思表示困難な方には、表情や目線や身振り手振りなど全身で発していることをキャッチしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりのペースや思いを聴いてその思いに沿って一緒に生活させていた			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人のこだわっているスタイルを把握しその人らしさが保てるようにしている。外出時などは、ご利用者の希望などにより、お化粧などのお手伝いをしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は併設施設の厨房が一括して行っている。ご飯はホーム内で炊いている。ご利用者にできることは手伝っていただき、準備、片付けをしている。時々カレーなどの昼食をご利用者と一緒に作ることもある。スタッフも一緒に食卓を囲み楽しみながら味わっていただけるようにしている。	食事は併設施設の厨房からワゴン車で配膳される。職員は声かけをしながら一緒に食べている。近所から頂いた野菜はその場で調理して利用者に出すこともある。またホットプレートで、うす焼き・ホットケーキ・フレンチトースト等を作ったり、ファミリーレストラン・回転寿司にも出掛けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日一人ひとりの食事摂取量や水分摂取量を把握し、体調の変化と共に留意している。体調や摂取状況に合わせて、管理栄養士と共に食事内容や形態、嗜好品の取り入れや工夫をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の前には嚥下体操を行っている。食後の口腔ケアは自分でできる方には言葉かけや見守りを行い、できない方にはお手伝いしている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し尿意のない方にもパターンを把握しプライドを守りながらそっと言葉かけをしながらトイレでの排泄支援をしている。	利用者の様子から余りにも頻回にトイレに向かう利用者には、回数の様子を見守り、言葉の工夫をして遠方へ興味を持って行くように努めている。パターンを把握して時間で誘導することで失禁が少なくなった。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の回数、量など毎日チェックし、十分な水分補給や食物繊維の多い食事の提供を心がけている。また蠕動運動が低下しないよう適度な運動や散歩をしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決めての入浴となっている。時間帯についてはご利用者の希望に合わせている。ゆっくり入りたい方にはゆっくりなどご利用者のペースに合わせて入っていただいている。プライバシーにも配慮しながら行っている。	週3回全員が入浴している。入浴する順番は利用者の希望に合わせて入浴している。入浴出来ない時は清拭を行って着替えをしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動的に過ごしていただき生活のリズムを整えるようにしている。眠れないご利用者にはホットミルクを飲んでいただいたり寄り添って話を聴いたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方説明書をそれぞれのファイルに綴じて、いつでも確認が出来るようにしている。また内服薬の変更があった場合は連絡ノートに記載し、スタッフ全員が把握の徹底に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や食事の片づけなどできる家事をしていただいている。楽しみごとはそれぞれ個別に書道・大正琴など楽しんでいただいている。またご利用者同士の交流を兼ねてホールで歌やゲームなど楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者に行きたい場所を聞き実現するようにしている。併設施設の協力を得ている。毎日外に散歩にでかけ季節を感じたりしながら気分転換が図れるよう支援させていただいている。	夏季の暑く散歩に出られない時は、併設施設の2階のベランダから外を見たり、併設施設の通所リハビリに行く等で気分転換をしている。涼しい時は近所に散歩に行く、会食でファミリーレストラン行くこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力も得ながら少額のお金を持っているご利用者もいる。ご家族からお金を預りホームで管理している方でも外出時や外食時などご自分で払っていただけるよう工夫している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるように支援している。電話については併設施設に公衆電話があるため、財布に自分のお金を入れてスタッフと一緒に電話をかけに行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間はいつでも気持ち良く過ごせるよう環境整備を行っている。花や飾り、絵なども季節感を感じてもらったり和んでいただけるような雰囲気作りをしている。	玄関先からは道ひとつ隔てて一面に稲穂が見える。玄関のホールはひと時を過ごせる空間で、ソファ・机が置かれていて萩・コスモスが活けてあり秋を感じる。廊下には生活の中で作成した貼り絵・習字・写真が貼られている。台所から、ご飯を炊く匂いや音など感じる事が出来る。トイレは3か所あり広く清潔で使い易い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールに椅子やテーブルを置いたり、畳のスペースに炬燵を置いたり、それぞれがお好きな場所で思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の希望に応じて写真や思い出の品、テーブルなど置いていただきご自分だけの空間のなかで安心して暮らしていただけるよう工夫している。	利用者が生活していた自宅同様、自分で作ったもの、利用していたもの、家族からの手紙や写真が飾られている。また今までの生活の中で得意とした書道・絵・用具などで本人が落ち着く為の配置がされて、居心地よいその人らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの心身機能の変化に考慮し、そのご利用者にあった生活環境や不安や混乱のないようなケアの工夫をしている。できないことに注目するのではなく、ご自分の力をいかして動けるよう、そっとサポートするようにしている。		